

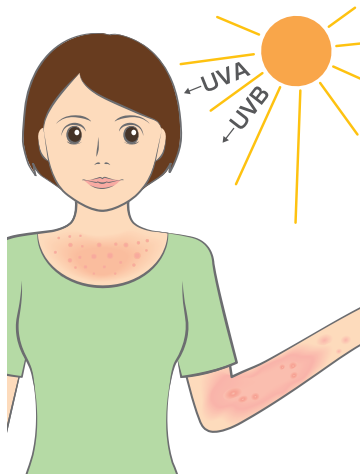
紫外線に過敏反応して生じる皮膚炎に注意!

夏の到来! UV対策を欠かさないで

立川皮膚科クリニック

www.tachikawa-derma.com

小丘診性日光皮膚炎 多形日光疹の症状



太陽が照りつける中で、プロ野球のデイゲームを観戦、大いに楽しんでほしいけれど、陽が当たっていた首の下や腕に赤い発疹がでてかゆい…そんな症状について、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医・立川皮膚科クリニック院長の伊東秀記先生に聞きました。

「日焼けでしょうか?」
「日焼けというより、光線の過敏反応による皮膚炎だと思います。主に紫外線A波(UVA)またはB波(UVB)に反応して発疹、かゆみ、水ぶくれなどが出るのを「多形日光疹」、A波(UVA)に反応して小水疱や赤く腫れたような丘疹ができるのを「小丘診性日光皮膚炎」と言います」

「日光を浴びる、いわゆる照射時間には個人差があり、数時間ほどで発疹が出現する場合や、次の日になって現れる場合もあります。発疹はたいがい数日から数週間まで消えますが、特にかゆみがひどい場合は、個人差ゆえに数週間以上続くことがあります。UVケア剤や外用ステロイド剤を処方します」

「紫外線は5・6月ごろが最も強いです。夏までではなく、初夏から秋までできるだけ直射日光を避けて、肌を覆うような服装に心掛けるなど、注意が必要です。UVケアクリームはPA10以上、SPF50以上の上のもの、特にUVB対策には、SPF50以上の上のものを選びましょう」

院長:伊東秀記
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、東京慈恵会医科大学医学部卒業



休診日: 日曜、祝日

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
9:30~13:30	○	○	○	○	12:30まで受け付け	○
15:00~19:30	○	○	○	○	18:30まで受け付け	17:30まで受け付け

問い合わせ
TEL042-843-1377
JR「立川」駅南口徒歩2分

2023年6月30日付 「リビング多摩」に掲載されました